

### 1. 解決したい課題の内容

- ・浜松市内北部の農家は、ニホンジカ・イノシシといった鳥獣による農作物の被害に悩まされている。
- ・有害鳥獣の捕獲を狩猟者に許可しているが、捕獲後の鳥獣について自家消費は3~4割にとどまり、そのほとんどは埋設されている。
- ・一方で狩猟者の高齢化が進んでいることなどを背景に、狩猟者本人による捕獲鳥獣の埋設処理が困難となり、清掃工場への持ち込み処理方法などが検討されているが、持ち込み手続きや費用負担など検討すべき事は多い。
- ・清掃工場への持ち込み以外での有用な処理方法として、ジビエ利用があげられる。浜松市内の中山間地域である天竜区内ではいくつかのジビエ加工施設が稼働しているが、有害駆除等により捕獲される野生動物は、農業者が罠をかけて見回り、捕獲をしているため農作業が優先され加工施設への連絡や情報共有が遅くなる。そのため暴れる時間が長くなり怪我が増えることによる歩留りの悪さや鮮度について加工の際問題が発生しやすい。銃猟による鳥獣は中山間地域の道路事情と捕獲場所により鮮度を保てず加工に適さない場合があり食肉加工される鳥獣が少ない。
- ・ジビエは通常の食肉に比べ低脂肪高たんぱくであり、自然の物を食べているため食にこだわる層から人気があるが、供給量が少なく需要に追い付いていない。管内のジビエ加工施設では、年100頭の加工販売を行ったが常に在庫がなく搬入量が確保できれば人を増やして対応可能である。西部猟友会天竜分会の有害鳥獣の処分方法は約4割が自家消費であるが、残り6割は埋設処分でありニホンジカのみでも天竜分会だけでも121頭になる。

### 2. 実現したい目標について

有害捕獲した鳥獣がスムーズにジビエ加工施設へ搬入されることにより狩猟者の埋設にかかる負担を減らし、捕獲数を増加する。  
捕獲者やジビエ加工施設において、安定的な収入が得られる雇用を創出する。  
ジビエの需要に供給が追い付き、天竜区のジビエをブランド化する。  
有害鳥獣の減少により農作物を安定して生産できる。

### 3. 必要とする技術について

一例として以下を想定するがこれにこだわらない。

- ・持込しやすい地域へのジビエ加工施設の設置
- ・罠捕獲情報の狩猟者と加工施設の共有化（捕獲パトロールシステムの情報共有）
- ・鳥獣の受け入れ先マッチングシステムの構築・運用技術・電波が弱い中山間地域内でも問題なく使用できる通信技術

### 4. 想定する実証実験（内容・希望時期等）について

以下を想定するがこれにこだわらない。

・市内中山間地域を実証フィールドとし、狩猟者が鳥獣を捕獲したことを想定したシナリオの元、上記技術を活用したプロトタイプのマッチングシステムを用いて鳥獣を受け入れるジビエ加工施設を決定し、施設へ持ち込むまでの一連の流れを実施し、効果や有用性を検証する。

※野生動物を食肉化するためには厚生労働省が定める「野生鳥獣肉の衛生管理に関する指針（ガイドライン）」をはじめとした法規制が多いため、狩猟者と食肉加工者が法規制やガイドラインの情報を共有できる仕組みであることが望ましい。

※中山間地では捕獲鳥獣の運搬が課題となるため、加工施設の衛生基地のような施設があると受入れがスムーズに行えるのではないかと考えられる。

## 5. 課題に関連する事業のホームページ URL

- ・浜松市鳥獣被害防止計画

<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/noushin/shinko/agri/choujyu/index.html>

- ・(参考) 静岡県「鳥獣被害対策について」

<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/nogyo/chojugai/1027194.html>

- ・(参考) 農林水産省 農村振興局「捕獲鳥獣のジビエ利用を巡る最近の状況」

[https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/h\\_kensyu/attach/pdf/R5/r5kensyu-061.pdf](https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/h_kensyu/attach/pdf/R5/r5kensyu-061.pdf)